

## 校訓《自主 友愛 健康》

天水中学校便り 10号

平成31年3月22日

校長 中村浩二

# 大きな感動をありがとう！～卒業証書授与式～

3月9日（土）、天水中学校第70回卒業証書授与式が、本校の体育館に大勢のご来賓・保護者の皆様をお迎えし挙行されました。厳粛な雰囲気の中にも、卒業生、及び在校生による心に響く合唱もあり、大きな感動のある卒業式となりました。46名の卒業生には、本校での教育活動を誇りに、自信をもって、様々な壁を乗り越えてほしいと思います。在校生は、先輩方が築いてきたよき伝統をさらに発展させるよう取り組んで下さいね。

## 天水中は、いじめを許さない環境を作ります！

ここ最近、連日、新聞やテレビ等で報道されている「いじめ」について書きたいと思います。

いじめは、「いじめる子」「いじめられる子」「それを見ている子」の存在があります。いじめを見ている子はさらに「観衆」「傍観者」の二つに分けられ、どちらも加害者です。（「観衆」は、直接手を下していないが、面白がって見ている子。「傍観者」は、気づいているが関わろうとしない子。）

### 《いじめによる自殺の事件に関わった人の言葉です。》

「自分も耐えてしのいだ。あの子も耐えられるはず」「いじめることが連帯感につながる。今は、本当の連帯感じゃないと分かっている」「学校に自分の居場所をつくるため、仕方なかった」

「仲間はずれになりたくなくて、仕方なくやった」「自分もやらないと、なんでいじめないのかと言われる」「いじめがストレス発散になる」「みんな一緒だから多い方が安全かなと思った」

### 《同じ事件の傍観者の声です。》

「今の僕なら止めに行きます。呼び出されたとき囲まれているところにいて、やめろと言って止めたい。そして、被害者のA君の話をもっと聞けば良かった。どんな気持ちでいたのか。話を聞いて、受け止めて、一緒に考えればよかった。」

児童生徒の死の周辺には、たくさんの後悔があります。見ている人は、行動する人に、大人に助けを求めることができる人になってほしい。声を上げることができる集団、いじめを絶対許さない集団になってほしい。そして、約束します。私たち大人は、みんなの声を受け止めることができる、信頼される存在です。みんなで、いじめを許さない環境を作りましょう！

### \*\*\* 追 記\*\*\*

在校生合唱の「正解」の中に、♪傷ついた友の励まし方♪という歌詞がありました。いろいろな正解があると思いますが、正解の例を1つ提案します。それは、「き・よ・う・し・つ」です。

「㊟気づいて」「㊙寄り添い」「㊕受け止めて」「㊞信頼できる大人に」「㊟伝えよう」

